

米国 ワシントン州のリンゴは増収で好機を提供する

FreshPlaza 2023年10月10日

ワシントン州ではリンゴの出荷の最盛期である。従来から10月は収穫量の多い月であり、ワシントンフルーツグローブズ社では今年は一と多き。同社は最近、ギルバート果樹園とのパートナーシップを開始し、同果樹園の果実の独占販売業者となった。同社のダン・デイビス氏は、「弊社は現在、ヤキマバレー地域で大手の果実関係企業の1つであり、ヤキマ地域の経済の重要な柱である」と言う。デイビス氏は最近、事業開発部長として同社に入社した。同社はすでにマウントアダムズフルーツ社、ロシュフルーツ社及びワシントンフルーツアンドプロデュース社の販売営業部門を代表している。主要なリンゴの梱包施設は、すべて互いに11マイル(約18km)以内にある。(以下「」は同氏の発言)

有機栽培

このパートナーシップにより、有機栽培リンゴと慣行栽培リンゴの両方の魅力的な品種の組み合わせが実現する。「有機栽培品は弊社の主要品種の約25%を占めている。」同社は有機栽培のハニークリbsp品種と同コズミッククリbsp品種に重点を置いているが、有機栽培のシェアが高い他の品種は、ガラ、ふじ、グラニースミス等である。「全体として、弊社は州の有機リンゴ出荷量のほぼ20%を占めている。」

コズミッククリbspと他の品種

パートナーシップは、ワシントンフルーツグローブズ社の有機栽培品のシェアを拡大しただけではない。「品種に関しては、コズミッククリbspで重要なシェアを獲得している。」それはまだ新しく、増加中の品種であるが、早い時期に植栽された多くの果樹は成木化している。出荷量に加えて、品質が何年にもわたって非常に安定している。同社は、コズミッククリbspの周年供給を行っている。「これは、弊社が大規模な生産者であるだけでなく、コズミッククリbspが非常に貯蔵性に優れたリンゴであることによっても推進されている。また、数シーズンを経て、生産者らがこの品種の貯蔵に習熟したことも助けになっている。」

デイビス氏は、今年の太平洋岸北西部のリンゴの作柄について非常に楽観的である。「食味は素晴らしい。こんなに良い果実を育てたのは数年ぶりである。近年一部の作物が減収しており、他の品目よりもリンゴを売り込む良い機会だ。」ここまでは天気も良かった。「昼間の最高気温と夜間の最低気温の差が大きく、これはリンゴが着色するために重要である。」

量的にも昨年より多く、堅調な作柄である。「収穫期間の中間点に近づいており、収穫量が当初の予想ほどには多くない可能性があるという兆しもみられる。」これは、一部の品種のサイズが小さく、出荷量が当初の見通しよりも約5~10%少ないことに起因している。デイビス氏は、主にガラやハニークリbspなどの早生品種について語った。同時に、今後どのように展開するかを語るのはまだ早い。

輸出

ワシントンフルーツグローブズ社のリンゴ販売の大部分は輸出志向である。「収穫量が少ないため、近年は輸出市場が十分活用できていない。今年の収穫量の多さは、インドの追加関税が撤廃されたことと相まって、輸出市場をさらに探求する機会となる。弊社は、品種に応じて世界中の出荷先に適切な量を輸出することを目指している。台湾ではふじが好まれる傾向があり、ベトナムではガラの評判がよい。また、メキシコと中米諸国も主要な輸出先である。」

同社は来週、10月20日と21日にカリフォルニア州アナハイム市で開催される国際青果物協会(IFPA)の世界青果物花き展に出展する。デイビス氏は、「弊社はこのイベントを心待ちにしており、取引先や潜在的な顧客に弊社の最新の状況をお伝えすることを楽しみにしている」と締めくくった。

執筆者: マリーケ・ヘムズ